

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(作問の都合上、本文の小見出し及び一部を省略しています。)

「アニミズム」という言葉を聞いたことがありますか。イギリスの民族学者タイラーが一八七一年に、原始宗教の特色を表す言葉として、はじめて用いました。すべてのものはアニマ(魂)①を持っていて、という考え方で、文明の発達していない民族特有のものだとされてきたのです。したがって、現代では通用しない古い時代の遅れた精神状態だと決めつけられて、評判が悪かったものです。なにしろ、動物や植物はもちろんのこと、石や水や土や道具などにも、そして自然現象にも命や魂や心があり、人間と話をしたり、精神的な交流ができるとする感覚ですから。

I 最近では「アニミズム」が見直されてきています。それは自然に対して、現代の主流である理知的な、科学的な見方ではない、深い見方として、再評価されているのです。また、アニミズムは決して文明が遅れている状態ではなく、現代人である私たちも身につけている人間らしさの現れだと考えられています。

II、きれいな花が咲いているのを見たら「ラッキー」と叫んだり、蠅が顔の周りを飛び始めたら、「あっちへ行け」と追い払ったり、まるで生きものどうしが会話している雰囲気です。そもそも花を摘んで飾ったり、鉢植えの花を育てるのも、花と目を合わせるのを楽しんだり、花に挨拶することもあるぐらいですから、アニミズムだと言えるかもしれません。ペットを飼っている人は、飼っているというよりも家族の一員として一緒に暮らしているという気持ちではないでしょうか。これもアニミズムでしょう。

III 「アニミズム」という西洋由来のカタカナ言葉を使うから、何か特別な感覚のように感じますが、

これまで説明してきたように、「生きものどうし」という感覚です。これは日本人だけでなく、人間なら誰でも持ち合わせているもののなのです。百姓の「稲の音が聞こえるようになれ」という教えも、日本人の伝統的な天地有情の自然観なのです。

生きものに限らず、山も水も土も生きていてだけではなく、魂(精神)を持っているという感覚は農業が狩猟採集の時代から引き継ぎ、さらに深めて来たものではないでしょうか。そこで私はアニミズムを「X 観」と訳しています。

ところが現代では生きものの生や命まで、科学的に解析し、ソウサできるといふ考え方が強くなっています。蛙を見て「わっ、かわいい」と言うよりも、「それはトノサマガエルで、絶滅危惧種IB類です」と言う方が科学的かもしれません。これでは生きものと情が通わなくなっていくでしょう。このことへの反省から、かつて生きものだけでなく、天地自然の諸々と話をしていた時代の感覚・感性が見直されて来ているのです。

「草木も生きている」と言えば、反対する人はいないでしょう。ところが、「草にも命がある」と言うのと、違和感を感じる人が増えてきています。さらに「草木には魂が宿っている」と言えば、多くの人が「Y」をひそめ、「それは宗教的な見方ですね」と反応します。

ここには(1)生、(2)生命・いのち、(3)魂・霊性、の三層があることがわかります。もとは一つだったものが、現代社会では三層に分かれてしまった、と言ってもいいでしょう。草木が芽生え、葉を伸ばし、花を咲かせ、実を稔らせるのは、「生」そのものです。しかし、その生のコンゲンには、その生を生まれさせ、

支え、終わらせ、そして再生させる何かがあるはずだと感じ、そう思う時にそれを「いのち」とメイメイしたのです。さらにその「いのち」は、生（なま）のときも、生を失った後も存在し続ける、もつとたしかな、それでいて姿はつきりしないものの力で貫（ぬ）かれていくような気がするとき、その存在を「たましい」（霊性）と呼んだのです。ただ近年気になるのは、「生命」が科学的に説明できるものとして、「いのち」から分離（り）していつていることです。まるで「いのち」から精神性を抜き取ったものが、「生命」であるかのような説明を科学がしがちなのは、薄（うす）つぺらな思想ではないでしょうか。

「いのち」や「たましい」のない生きものは、生きものではなかったのです。お玉杓子（たまじょうし）の死骸（がい）を前にして、そこにはもうお玉杓子の「生」も「いのち」もありませんが、済まなかったと詫（わ）びて声をかける時、お玉杓子の「たましい」はそこにまだ存在しているような気がします。「生」と「いのち」の名残（なごり）として、そこで私の詫（わ）びを聞いているという気がするのです。

アニミズムと並んで、かつては「擬人法」^③も幼稚（ち）な遅れている表現法だと思われてきました。しかし、日本人に限らず人間は相手の気持ちを読み取る能力が発達しています。そういう能力を持っていないと人間社会（共同体）をつくることはできなかったはず。この能力は人間だけでなく、生きものにも適用されるようになりました。

お玉杓子やみみずが死んでいると「かわいそう」と思うのは、人間らしい心の動きです。赤とんぼの群れに取り囲まれて「すごい」と感動するのは、フシギでも何でもありません。自然な感覚です。この感動を家族や友人

に語る時には当然人間の言葉で表現します。それをわざわざ「擬人法」と呼ぶ必要などなかったのです。人間の言葉の使い方、自然を表現する時に、擬人法でないものを探す方が難しいでしょう。もつとも現代では科学的な表現が発達してきているので、それと比較（かく）するから「擬人」と言いたくなるのです。

ところであなたは、科学的な表現とは客観的なものだと思いませんか。ところが私たちが科学的な法則を理解するときには、擬人法を使っているのです。その方が実感しやすいからです。「植物は太陽光線で、水と二酸化炭素から、澱粉（でんぷ）をつくる」の「つくる」は擬人法です。また、「宇宙は一三七億年前に生まれた」の「生まれた」も擬人法でしょう。

科学者であっても、わかりやすく伝えようとすると、無意識に非科学的な擬人法を使ってしまうのです。これは非科学的だと批判するべきではなく、とてもいい文化なのです。

（中略）

アニミズムが現代人にとっても、かけがえのない豊かな文化だと見直されてきた理由のひとつは「心の理論」が一九七〇年代に生まれたからです。あなたはなぜ、友だちの気持ちがわかるのですか。友だちの表情や言葉や行動や仕草から、読み取っているからでしょう。どうやら他の動物にはこうした能力はないことがわかってきました。みなさんの相手の心を読む能力は人間だけのものです。このように人類は進化してきた、と言われています。

ところがみなさんは、この相手の心を読み取る能力を動物や植物や、そして物にも使ってしまうのです。あなたが生きものが好きなのは、生きものの中に通い合うものを感じるからなのです。これこそ、アニミズムの正体^④

なのではないでしょうか。約五万年前から、人類には死んだ人の墓に花を添える習慣が始まりました。「あの人が好きだった花を供えよう」という気持ちは現代でも続いています。こうしたアニミズムが生まれたからこそ、虫や草だけでなく、雲や雨や太陽や山や川にも心や意図を読み取るのです。「どうしても、こんなに雨が降らないんだ。そろそろ降ってくれ」と本気で空を見上げて祈るのです。まるで空に意志があるかのように、相手にしているのです。

私たちが「物語」を生みだすのも、そして宗教までつくりあげて信仰するのも、こういう能力を備えてしまっただけなのです。「擬人法」という表現の仕方は、決して昔の古い習慣などではなく、現代にいかす大切なものなのです。

この能力・感覚と習慣がなかったなら、日本人に限らず人間が自然を好きになったり、自然にひかれたりすることなどはなかったでしょう。これからもこの感覚と習慣をもっとと大事にしていかなばならないと思います。

(宇根豊『日本人にとって自然とはなにか』)

※ 絶滅危惧種 I B 類……絶滅のおそれがある種の中で、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。

問1 波線部 a～d のカタカナで、次の――を漢字に直した時、同じ漢字を用いる熟語を次の 1～4 の中から選び、その熟語のカタカナを漢字に直して答えなさい。

a ソウサ

- | | | | |
|---|--------------|---|------------|
| 1 | チヨウサ結果を発表する。 | 2 | サドウを習う。 |
| 3 | サギヨウを中断する。 | 4 | サベツをなくす運動。 |

b コンゲン

- | | | | |
|---|------------|---|----------------|
| 1 | 力のカゲンが難しい。 | 2 | 限りあるシゲンを大切にする。 |
| 3 | ゲンインを究明する。 | 4 | 疲労がキョクゲンに達する。 |

c メイメイ

- | | | | |
|---|-----------------|---|--------------|
| 1 | コウメイセイダイに勝負をする。 | 2 | ユウメイムジツなルール。 |
| 3 | コクサイレンメイを脱退する。 | 4 | ゼツタイゼツメイの危機。 |

d フシギ

- | | | | |
|---|-----------|---|---------------|
| 1 | イギを唱える。 | 2 | 殺人のヨウギがかけられる。 |
| 3 | ギリを大切にする。 | 4 | 科学ギジュツの進歩。 |

問2 ——— ①「評判が悪かった」とありますが、その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 動植物には魂があるが、自然現象にも魂があるというのは誤りであるから。
イ タイラーの魂に対する考え方は、原始的で全く根拠のないものであったから。
ウ 人間以外のものも魂を持っているという考えは、現代からすると非科学的だから。
エ 古い時代の人とはちがい、現代人は動植物と精神的な交流ができなくなったから。
オ 当たり前の感覚であるのに、なじみのうすい西洋由来の言葉を使っているから。

問3 空欄 に入る語を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号を二度使うことはできません。

ア だから イ あるいは ウ ところが エ つまり
オ なぜなら カ たとえば キ ところで

問4 空欄 に当てはまる語として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 万物有魂 イ 生物有魂 ウ 人間有魂 エ 万物無魂 オ 生物無魂 カ 人間無魂

問5 ——— ②「『草にも命がある』と言うと、違和感を感じる人が増えてきています」とありますが、それは

人々がどのような考えをもっているからですか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 草は精神を持っていないので、科学的には「生命」も「いのち」もないという考え。
イ 草にも精神が認められるが、「いのち」や「たましい」という言葉は大げさであるという考え。
ウ 草には「生」も「たましい」もあるが、それらを支える力である「いのち」はないという考え。
エ 草は生きているので「生命」はあるが、精神は持っていないので「いのち」はないという考え。
オ 草は芽生えてから実をつけるまでに何度も姿を変えるので、それらを貫く不変の「いのち」はないという考え。

問6 空欄 には身体に関連する語が入ります。その語をひらがなで答えなさい。

問7 ——— ③「擬人法」とありますが、擬人法を用いた文を自分で考えて答えなさい。ただし、次に挙げる語のうちのいずれか一語を使い、主語と述語を含む文で答えること。また、本文で挙げられている例を使ってはいけません。

地球	太陽	植物	風	空
----	----	----	---	---

問8 ——— ④「アニミズムの正体」とは何か、説明しなさい。ただし、次の1～3の決まりに従って答えること。

- 1 文末が「～こと。」に続くようにすること。
- 2 五十字以内で説明すること。
- 3 「能力」「人間」「精神性」の三つの語を答えに含むこと。

問9 次の①～⑤の文を読み、それぞれ本文の内容と合致^ちするものにはア、合致しないものにはイと答えなさい。ただし、全て同じ記号を書いた場合、採点の対象とはしません。

- ① 花を摘んで飾ったりできるのは、花には心が無く痛みを感じないと考えているからだ。
- ② 生きものを科学的にとらえることで生きものと情が通わなくなってしまうことへの反省からアニミズムのような考え方が再評価されている。
- ③ お玉杓子の死骸に詫^わびるのは、お玉杓子の「生」は失われていても「たましい」はまだそこにあると感^{かん}じるからだ。
- ④ 科学者は科学的な事柄を説明する際に、擬人法のような非科学的な表現を決して用いるべきではない。
- ⑤ 人間が「物語」を生み出したり宗教を信仰したりするのは、人間が非科学的なものを創造する能力に長けているからだ。

(問題は次のページに続きます。)

次の文章は、宮下奈都『終わらない歌』の一節です。読んで、後の問いに答えなさい。

音大で音楽を専攻する御木元玲は、高校の同級生だった原千夏に誘われ、千夏の属するミュージカル劇団の若手公演に出演することになった。千夏と劇団同期生の早瀬七緒とでメインの三人を演ずるため、稽古を重ねている。なお、伊戸洋介は劇団のリーダー、仁科秀子はその妻で今回の演出の担当である。

気にするな、と伊戸さんはこちらを振り向きざまにいった。

「あんたは何も気にしなくていい」

ぎよろりとした目だが、口元は少し緩んでいるようにも見えた。

「あんたが入ることで、面白くなってる。何も心配せず A と歌を歌っていればいい」

突き放されたような感じがした。劇団員ではないのだからしかたがない。でも。

「歌うだけですか」

聞き返すと、彼はうなずいた。

「迷ってるんだろ。ただ歌うだけなのか、って。そうだよ、ただ歌うだけでいいんだ。あんたの価値はそれだ」
場違いなのはわかっているけれど、笑い出さなくなった。ただ歌うだけ。それが私の価値。ジョウトウじゃないか。

「それだけあんたの歌は圧倒的なんだ」

伊戸さんは不躰に私の頭から足先まで B と見た。値踏みされてもひるまない。私の価値は歌だけだ。だけど圧倒的であるわけがない。私がいちばんよく知っている。大学に戻れば、私はただの目立たない歌手だ。

「仁科から、歌がよくなってるといわれて観に来た。たしかに、以前とは雲泥の差だ。あんたのおかげだ」

「いえ」

「自分の歌のよさがわかるか？」

黙っていた。わかりません、といいたくなかった。私が信じてやらないで、誰が私の歌など聴きたいと思うだろう。

「芝居も悪くない」

「そんなことはないです。歌うことに夢中になってしまっただけ、でも、私は歌しか求められていないんだから、これでいいんだろうって」

声小さくなっていくのと同時に、別の気持ちが C と大きくなる。これでいいんだろう、じゃない。そんなあやふやな気持ちじゃない。

きつぱりと顔を上げ、伊戸さんのキビしい目を見た。

「これしかできない、と思って歌っています。こんなふうにはできない、ぎりぎりの、歌える限りの、歌です」
「それでいいじゃないか」

伊戸さんがうなづく。

「あんたの歌はいい。でも、歌だけじゃない。あんたは歌を育ててきたつもりで、歌があんたを育ててくれたんだな」

意味がわからなかった。黙って続きを待った。

③「夢と希望。あんただろ、解釈を変えたのは」

伊戸さんは D と口の端を上げた。

「あ……はい」

解釈、といえるほどたいそうなものではない。ただ、劇中歌に出てくる「夢」や「希望」といった単語を、素直に明るく歌うだけでは少し違うのではないかと、千夏と七緒に話した。夢や希望をよきものとして高らかに謳い上げるのではなく、疑いを持つくらいの方がいいのではないかと、と。

夢は遠い。希望は儚い。どんなに手を伸ばしてもつかめなかもしれない。夢も希望も、挫折や絶望のすぐそばにある。もしかしたら、欲しがらない方がいいのではないか、希望など初めからないほうがよかったのではないかと疑いながら、それでも希望を持たないわけにはいかない。夢に向かわずにはいられない。

「なるほど、希望をよろこばずに歌うのは、リアルだと思ったよ」

「はい」

※パンドラの箱に、最後にたったひとつ残ったのが希望だったという。それは福音だったのだろうか。先に箱から出ていった邪悪なものたちと同じように、実は、希望もゼウスのもたらした災厄のひとつだったのではないか。

新たな解釈というよりも、自分自身の心の奥底にある本音だった。夢も、希望も、前向きなだけのものではない。それがあるから苦しい。でもそれなしではやっていけない。その気持ちを思い切って話したら、千夏も、七緒も、すぐに理解してくれた。ドウシなのだ。希望の塊のような千夏にも、途有 □ はずの七緒にも、夢と希望はときに重くてきびしいものだと判った。

「仕上がりが楽しみだよ」

私が返事をする前に、伊戸さんは踵を返した。

「ありがとうございます」

背中に向かって頭を下げたけれど、まだだ。きちんとお礼をいえるほど、私は納得していない。

※「終わらない歌」のオリジナルを歌っているのはザ・ブルー・ハーツ、男性ヴォーカルだ。わざわざキーを変えてまで女性三人で歌う意味をすっかりつかみたい。夢や希望を恐れつともなんとか近づこうとする。友や恋を欲しながら遠巻きに見ている。臆病なのに食欲なのは、男だけじゃない。むしろ女のほうじゃないか。だから、解放する。歌で解放するんだ。だって、スイッチが入ったら最後、モーターが回り続けている。歌いたい、歌いたい、歌いたい。ずっとそう思い続けている。

クラスという狭い場所でさえ一番になれない。その事実がいつも胸に重くのしかかっていた。評価されても素直には受け取れない。だけど、もしかしたら、一番になれないことで得られるものがあったのか。

一番だったらここには来なかった。ここで歌うことはなかった。夢にも希望にも肯定的なイメージしか持たなかっただろう。一番の人には見えない景色を、私は見る。歌う場所がほしくて、聴いてくれる人を探して、よう

やくここで歌うことができる。そのよろこびをかみしめることができる。

⑥「うどんのみみて知ってる？」

駅までの帰り道、歩きながら千夏がいった。千夏はタフだ。七緒と私は疲れ切っていて、ううん、とか、ああ、とか曖昧な返事しかできない。

「うちの実家、うどん屋なんだけどね」

うん、ああ。適当に答える。千夏は元気だな。

「手打ちの麺^{めん}って、切れはしが出るの。生地^{きじ}を麺棒^{めんぼう}で伸ばして端^はから切っていった最後のところ。びろんて残ったり、細くなったりね。いかにも手打ち麺^{めん}って感じだから、みみを売りにする店もあるんだって。でも、それを父はいちいち取るんだよね。こんなのはプロの仕事じゃないって。茹^ゆでたときに火^dがキンイツに通らなかったり、つゆの絡^{かち}み方が変わってきたりするからね」

もはや、私も七緒も、うんともああともいわない。千夏もそれで気にしないようで、車も少なくなった夜道をひとりで喋^{しゃべ}りながら歩いていく。

「でもさ、私、実はみみが好きなんだよね。たまーに混じってたりするとうれしくて。たしかに噛^かみ応えが違うから、その道を追求する人にとっては嫌^{いや}なんだろうけど、なんていうか、味っていうかさ」

「あ、わかるような」

私の隣^{となり}で七緒が反応する。

「すごくおいしいパン屋さんのフランスパンが、たまに形^{かたち}が不恰好^{ふかつこう}で端^はつこのほうに焦^こげ目^めがついちゃってたりするの、イガイとおいしかったりする」

「そうそうそう」

千夏がうれしそうに笑う。その笑顔^{えん}を見てようやく気がついた。千夏は七緒のために話している。型通りに演技をしようとして、歌おうとして、七緒は硬^{かた}くなっている。みみもおいしい。七緒に伝えようとしている。

「おいしいうどんにたまにみみが混じっていると、なんかちよっと得^えした気分になるね」

私もいつてみる。千夏と七緒が笑ってうなずく。ただしそれは普段^{ふだ}から品質^{ひんしつ}がよく、安定している場合の話だ。たまのイレギュラーが楽しいってことだ。

私が脇^{わき}を固める。だから、七緒はたまに外してもいい。だいじょうぶ、安心して。

めずらしく星のきれいな空を見上げ、口には出さず、心に決める。千夏が精^{せい}いっぱいの言葉で七緒を励^{はげ}ますように、私は歌で七緒のよさを引き出すんだ。

「あ、見て」

千夏が声を上げた。

⑧「あんなにはっきり見える。夏の三角」

「え、どれ」

三人で初夏の空を見上げて、どれとどれが、と指を差しあった。

「もしかして、あの明るい星？」

「そう、そのこっち側の星と、ほら、あっちの少し暗い星と」

「ほんとだ、大三角だ」

立ち止まって 9 防備に空を見上げる。

「正三角形じゃなかったんだ」

七緒がいった。私もちょうどそう思っていたところだ。

「こと座のベガと、わし座のアルタイルと、あとなんだったかな、はくちよう座？ デネブ？」

しかもそれぞれ別の星座として輝いていて。

「ベガとアルタイルは織姫と X だよ」

「え、じゃ、デネブってば完全にお邪魔じゃん」

「でもデネブとベガの距離のほうが近いよね」

「うん。ベガとアルタイルの間には、 Y がある」

三人揃って目を凝らす。東京の空に Y は見えないけれど。

私たちも、正三角形である必要は、きつとない。

三角形には角が三つあって、どの角が一番考えることに意味はない。私たちにできることは、それぞれの角を引き立てあって、強めあって、最高にかっこいい三角形をつくることなんじゃないか。

私は千夏に支えられている。七緒にも助けられている。私にできるのは、歌うことだけだ。歌に関してだけは、千夏にも、七緒にも、アドバンテージがあると思う。それなら、やることはひとつだ。私がふたりに合わせ

ればいい。私が入ってどんな三角形ができるか楽しみにしてくれている仁科さんにも、気にするなといってくれた伊戸さんに応えるためにも、私がふたりの歌に合わせよう。ふたりの歌を最大限に活かせるように。

ふたりに合わせた上で、私は自分の歌を歌う。鋭角になったり鈍角になったりしながら、一番美しい三角形を目指す。だいじょうぶ、合わせたからといって私の歌のよさが消えたりはしない。私が大事に育ててきたものは、そんなにやわじゃなかったはずだ。

※ パンドラの箱……ギリシア神話で、最高神ゼウスが、あらゆる悪と災いを封じ込めて、人類初の女性・

パンドラに渡した箱。パンドラが好奇心から箱を開けたため、地上には不幸が広がり、

希望だけが箱の底に残ったという。

※ 福音……喜ばしい知らせ。

※ ザ・ブルーハーツ……男性四人による日本のロックバンド。一九八五年結成、一九九五年解散。

※ アドバンテージ……有利な立場・条件。

問1 a) e のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 空欄 A へ D にあてはまる言葉として最も適切なものを、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号を二度使うことはできません。

ア　ぐいつ
イ　にやり
ウ　じろじろ
エ　むくむく
オ　もやもや

カ　堂々
キ　ちらつ
ク　軽々

問3 ————— ① 「ただ歌うだけでいいんだ」にはどのような気持ちがこめられていますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 演技やセリフ回しに力を入れるよりも、唯一の長所である歌を思い切り歌ってほしいという気持ち。

イ 他の出演者に好影響を及ぼすほど歌がすばらしいので、十分に実力を発揮してほしいという気持ち。

ウ 本人の歌への自信のなさを見抜いて、歌以外のプレッシャーを取り除いて励まそうとする気持ち。

エ この作品にとって歌が最も重要な要素なので、その中心的な役割を担ってほしいという気持ち。

問4 ————— ②「雲泥の差」とほぼ同じ意味を表す言葉を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア われ鍋なべにとじ蓋ふた
イ 鬼おにに金棒
ウ 猫ねこに小判
エ 対岸の火事
オ 月とすつぽん

問5 ——— ③「夢と希望。あんただろ、解釈を変えたのは」とありますが、最初の解釈から、どのように変えたのですか。「に変えた。」に続くように、二十五字以内で答えなさい。

問6
④
「途有」の空欄にあてはまる漢字を入れ、四字熟語を完成させなさい。

問7 ————— ⑤・⑦・⑩の意味として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

⑤「踵を返した」	ア	うなずいた	イ	合図をした	ウ	あともどりした	エ	終わりにした
⑦「取る」	ア	除去する	イ	収集する	ウ	採用する	エ	保持する
⑩「やわじゃなかった」	ア	いい加減ではなかった	イ	情けなくはなかった	ウ	こわれやすくはなかった		

ウ 敏感^{びん}ではなかった

問8 ————— ⑥ 「うどんのみみ」のたとえによって、(1) だれが、(2) だれに、(3) どのようなことを言おうとしていますか。(1)・(2)は本文中から人名をぬき出し、(3)は三十字以内で答えなさい。

問9 ——— ⑧ 「夏の三角」から、玲は自分たちにあてはめてどのようなことを考えていますか。四十字以内で答えなさい。なお、「三角」という言葉を用いてはなりません。

問10

⑨

「防備」

の空欄に入る一字を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 不 イ 無 ウ 非 エ 未

問11

空欄

X

にあてはまる言葉を答えなさい。

問12

空欄

Y

にあてはまるものを詠んだ俳句を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 稲妻いなづまに追はるる瀬戸せの夜舟よねふねかな

イ 星の飛ぶ物音ものおともなし芋いもの上

ウ 荒海あらや佐渡さどによこたふ天とうの川

エ あとの月を取とつてくれろと泣く子かな

受験番号	
氏名	ふりがな

↓ここにシールをはってください↓



一

問9	問8	問7	問6	問4	問3	問2	問1																																																																																	
<table><tr><td>④</td><td>①</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td>⑤</td><td>②</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>③</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	④	①			⑤	②				③			<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																																					<table><tr><td>I</td></tr><tr><td></td></tr><tr><td>II</td></tr><tr><td></td></tr><tr><td>III</td></tr><tr><td></td></tr></table>	I		II		III			<table><tr><td>c</td><td>a</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>b</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td>d</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	c	a						b			d			
④	①																																																																																							
⑤	②																																																																																							
	③																																																																																							
I																																																																																								
II																																																																																								
III																																																																																								
c	a																																																																																							
	b																																																																																							
d																																																																																								

ふりがな

二

問10	問9	問8	問7	問6	問5	問3	問2	問1																																																																																																																																											
	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																									<table><tr><td>(3)</td><td>(1)</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>(2)</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	(3)	(1)																(2)					<table><tr><td>⑤</td></tr><tr><td></td></tr><tr><td>⑦</td></tr><tr><td></td></tr><tr><td>⑩</td></tr><tr><td></td></tr></table>	⑤		⑦		⑩		<table><tr><td>途有</td></tr><tr><td></td></tr></table>	途有		<table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																<table><tr><td>A</td></tr><tr><td></td></tr><tr><td>B</td></tr><tr><td></td></tr><tr><td>C</td></tr><tr><td></td></tr><tr><td>D</td></tr><tr><td></td></tr></table>	A		B		C		D		<table><tr><td>e</td><td>c</td><td>a</td></tr><tr><td></td><td>イ</td><td>ド</td><td>ジョ</td></tr><tr><td></td><td>ガ</td><td>ウ</td><td>ウト</td></tr><tr><td></td><td>イ</td><td>シ</td><td>ウ</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>d</td><td>b</td></tr><tr><td></td><td>キン</td><td>キ</td></tr><tr><td></td><td>イツ</td><td>ビ</td></tr><tr><td></td><td>しい</td><td></td></tr></table>	e	c	a		イ	ド	ジョ		ガ	ウ	ウト		イ	シ	ウ						d	b		キン	キ		イツ	ビ		しい	
(3)	(1)																																																																																																																																																		
	(2)																																																																																																																																																		
⑤																																																																																																																																																			
⑦																																																																																																																																																			
⑩																																																																																																																																																			
途有																																																																																																																																																			
A																																																																																																																																																			
B																																																																																																																																																			
C																																																																																																																																																			
D																																																																																																																																																			
e	c	a																																																																																																																																																	
	イ	ド	ジョ																																																																																																																																																
	ガ	ウ	ウト																																																																																																																																																
	イ	シ	ウ																																																																																																																																																
	d	b																																																																																																																																																	
	キン	キ																																																																																																																																																	
	イツ	ビ																																																																																																																																																	
	しい																																																																																																																																																		

に変えた。